

Make Houseの D X

2024年7月  
2025年7月改訂

Make House 株式会社

1. 当社経営の方向性
2. DX戦略骨子
  - ①社会へのお役立ち
  - ②事業DX
  - ③自社DX
3. DX推進体制
4. 環境整備について
5. 主な成果指標

# 1. 当社経営の方向性

昨今の建設業界では就労人口の減少や働き方の多様化により、数多くの課題に直面しています。労働集約型であるため、生産性および効率性の向上が特に求められています。これらの変化に対応し、課題に対処するため、当社はデジタル技術とデータ活用により、新たなビジネス価値を創出し、全ての関係者に価値を提供することを目指します。

1. お客様のビジネス成長を全力で支援するため、これまで培った現場理解と技術を活かし、業界と顧客ニーズに柔軟に対応し、最適なソリューションを提供します。

2. 労働生産性の向上と従業員のエンゲージメント強化のため、積極的に社内の組織変革に取り組んでいます。

このように、私たちは、お客様の現場に寄り添い、お客様にとって本当に価値あるソリューションを提供してまいります。

Make House 株式会社

代表取締役 眞木 健一

## 2. DX戦略骨子

### ①社会へのお役立ち（DX貢献）

Make Houseの現場知見と創業来培ったデジタル技術で、お客様を作業からカイホウします。  
BIM（Building Information Modeling）を活用した営業ツールや設計ツールを提供することで、工務店様の営業や設計にかかっていたコストを大幅に削減

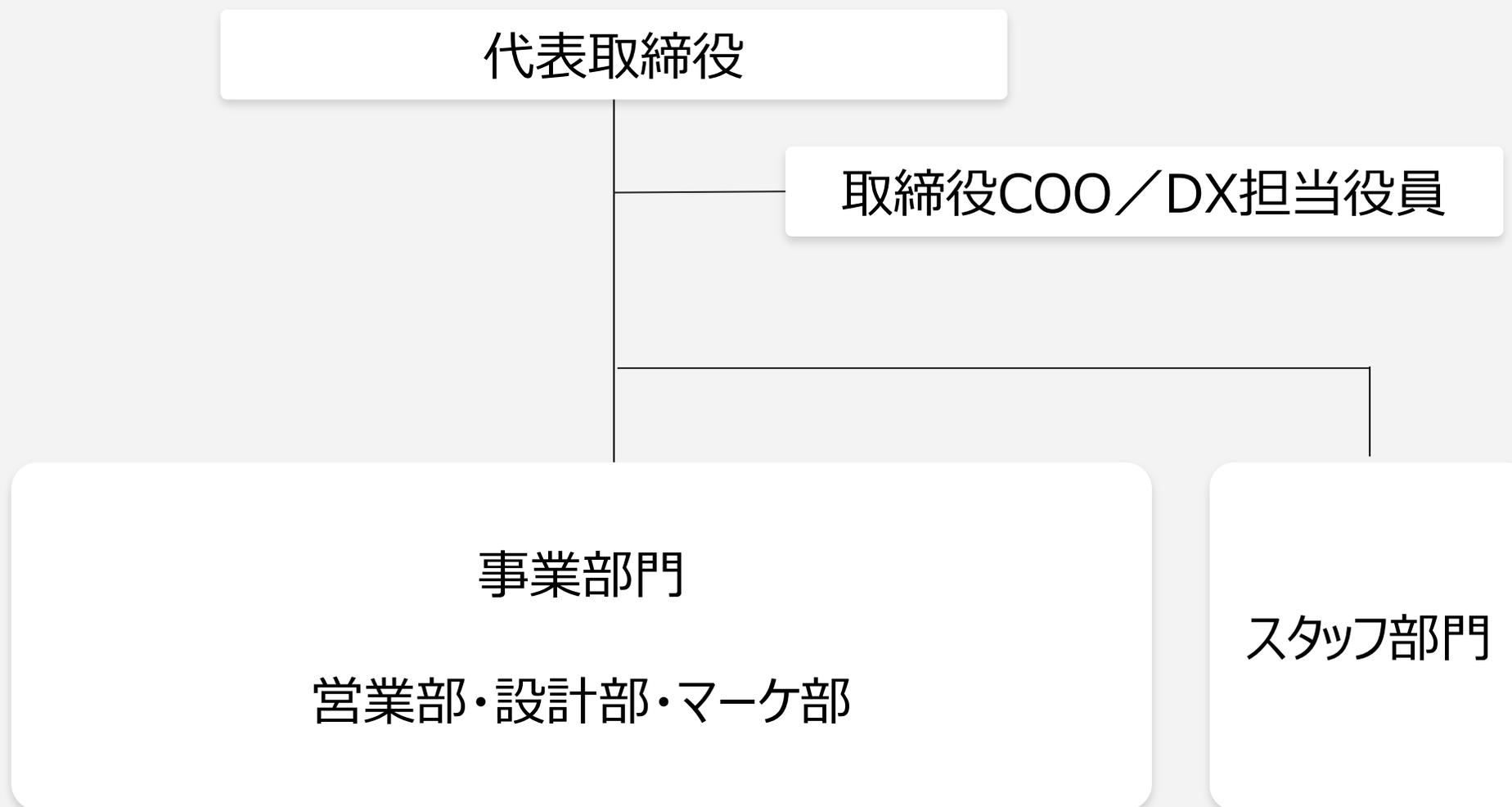
### ②事業DX

データを活用し、顧客を知ることで、顧客接点強化  
顧客情報の一元管理し、社内で共有することと、AI×データで顧客のニーズや行動パターンを把握し、よりパーソナライズされたサービスを提供します

### ③社内DX

クラウドを利用しデータを基軸に情報共有による業務改革、事業推進  
クラウドおよびデジタル技術の活用による業務の効率化と競争力の強化を図り、持続可能な成長を実現することを目指します

### 3. DX推進体制



- 人材育成 人材類型を明示した上で、キャリア・育成プランの策定、自主的な勉強会、資格取得支援等の各種施策を推進し、技術取得、マネジメント力、DXリテラシー強化を図る。

## 4. DX基盤整備

### 1. 顧客管理のシステムの導入

顧客情報を管理し共有するためのCRMシステムを導入しております

### 2. 設計活動におけるAIツールの導入

設計作業においてはBIM用いた設計作業にAIを導入することで設計情報の生産性を高めていきます

### 3. グループウェアSlackの運用定着

クラウド型のグループウェアでの社内の文書の一元管理や、社内チャットやSNSを使ったタイムリーな情報共有に積極的に取り組んでいます

# 5. 主な成果指標

## 1. 専鋭領域の事業構成比

当社の強みであるデジタル技術を活かしてお役立ちする注力領域（DX関連領域）の売上構成比

## 2. 営業活動および設計活動の効率化指標

営業部、設計部においての業務削減時間、1件当たりの開始から完了までの平均時間

## 3. 情報共有割合

グループウェアの利用率と共有されている案件情報の割合